

おはなし会に来てください！

長岡図書館が休止となったため、あやめ会館でおはなし会を始めました。日程は、図書館日よりや図書館ホームページなどでお知らせします。ぜひ親子でお越しください。

- ▶毎月第2土曜日 11:00～11:30
中央図書館 おはなしコーナー
- ▶毎月第2・4土曜日 14:00～14:30
葦山図書館 幼児図書室
- ▶毎月第3土曜日 10:30～11:00
あやめ会館 2階研修室

※いずれも対象は幼児～小学生、申込不要



☎中央図書館 ☎0558-76-5566
☎葦山図書館 ☎055-949-8605

春のおはなし会

こどもの読書週間にあわせ、春のおはなし会を開きます。

時 5月22日(日) 11:00～11:45

所 中央図書館 2階 視聴覚室

対 幼児～小学生

内 絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、手遊びなど
(協力:図書館読み聞かせボランティア)

※申込不要。直接会場へお越しください。

図書館だより



『こころの処方箋』
河合隼雄(著)／新潮社

「ふたつよいことさてないものよ。」呪文のように唱えていると心が収まり、ゆとりが生まれる。平易でわかりやすい五十五章。菊池会長のおすすめ本です。 【全館】



『幕末の知られざる巨人江川英龍』
橋本敬之(著)／KADOKAWA

幕末の日本にあり、幅広い人脈と先見的な実践行動で日本近代化の礎を築き、頼られる為政者となった英龍の生きざまを学ぼう。鈴木委員のおすすめ本です。 【全館】

■『木のいのち木のこころ(天)』西岡常一(著)／草思社【中央】
さまざまなものへの見方が変わります。菊池会長のおすすめ。

■『でんでんむしのかなしみ』新見南吉(作)かみやしん(絵)／大日本図書【全館】
かなしみは、わたしばかりではない。菊池会長のおすすめ。

■『十六の話』司馬遼太郎(著)／中央公論社【全館】
「二十一世紀に生きるきみたちへ」の章を。菊池会長のおすすめ。

5月の休館日	中央図書館	2日(月)～5日(木・祝)、9日(月)、16日(月)、23日(月)、27日(金)、30日(月)	葦山図書館	3日(火・祝)、4日(水・祝)、6日(金)、11日(水)、18日(水)、25日(水)、27日(金)
--------	-------	---	-------	---

図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/> ☎中央図書館 ☎0558-76-5566

今月のおすすめ ～運営協委員おすすめ～

図書館運営協議会会長・菊池裕子さんと、委員・鈴木貫太郎さんのおすすめ本を紹介します。

■図書館運営協議会

市民の皆様にとってより利用しやすい図書館の運営を目指し、ご意見をいただく場として図書館運営協議会があります。各種団体の代表者など、9人の委員さんにより年2～3回の協議会を開催しています。今回は、委員さんがおすすめの本を紹介していただきます。



図書館カレンダー
モバイル版QRコード

■5月のおはなし会

※いずれも土曜日

中央図書館 14日 11:00～

葦山図書館 14日、28日 14:00～

あやめ会館 21日 10:30～

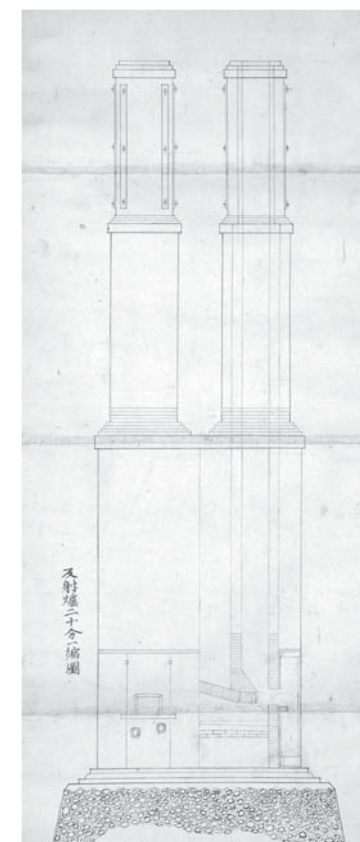
文化財通信

その131

水戸藩的那珂湊反射炉(その2)

☎市役所文化財課
☎055-948-1428

(平成28年3月号 その1より続く)
安政5年(1858)7月、不時登城事件による徳川斉昭の謹慎・永蟄居の影響を受け、操業停止に追い込まれた那珂湊反射炉。再開の目的が立たない中、現場責任者として反射炉の築造・操業を指揮してきた水戸藩士佐久間貞介が、9月2日に自刃。また、技術者として招聘されていた南部藩士大島高任・三春藩士熊田嘉門・薩摩藩士竹下矩方の3名も、翌安政6年1月に解雇され、それぞれ帰藩します。
万延元年(1860)3月、水戸浪士を中心とする一派が大老井伊直弼を暗殺するという「桜田門外の変」が起こり、水戸藩はさらに厳しい立場に立たされることとなりました。そして同年8月には、強力なリーダーシップで反射炉事業を進めてきた徳川斉昭が、幽閉されていた水戸城内で死去してしまいます。
このような状況下にあっても、那珂湊反射炉は完全に閉鎖・放棄された訳ではなく、来るべき再開に備えて、藩士が常駐して維持管理をしていたようです。『那珂湊市史 近世』(ひたちなか市教育委員会・平成20



那珂湊反射炉縮図(茨城県ひたちなか市教育委員会提供)

年刊)によれば、万延元年末頃から操業再開への動きが見られるようになり、文久2年(1862)10月には、操業停止前に鋳造されたものの完成していなかった、口径3寸の鉄製砲2門の砲身をくり抜く作業が開始されました。11月には反射炉本体の補修が行われ、12月には口径4寸の鉄製砲が鋳込まれています。その後も、元治元年(1864)にかけて、計5門の鉄製砲が鋳造されました。これらの大砲は、ほとんどが幕府に献上されたと伝えられています。
ようやく再開された那珂湊反射炉ですが、しかし、その後順調に操業を続けることはできませんでした。元治元年3月、水戸藩の中でも過激な尊皇攘夷を唱える一派(尊攘激派)が筑波山で挙兵。元々対立していた水戸藩保守派(諸生派)や、幕府の

鎮圧部隊との間で戦闘が繰り広げられることとなったのです。「元治甲子の乱」、いわゆる「天狗党の乱」です。
元治元年8月から10月にかけて、特に激しい戦闘が行われたのが、まさに反射炉のある那珂湊周辺でした。この戦いにより、那珂湊反射炉も兵火にかかり、破壊されてしまいます。こうして、水戸藩の反射炉事業は、予期せぬ形で幕を下ろすこととなりました。
現在、那珂湊反射炉跡(ひたちなか市栄町・茨城県指定史跡)には、昭和12年に復元された実物大模型があります。操業時の葦山反射炉と同じ、まっ白なその姿は、日本近代化のさきがけとしての歴史を、今に伝えています。